

	金沢大学 学際分野
学部等の教育研究組織の名称	人間社会学域（第1年次：750名、第3年次：10名） 人間社会環境研究科（M：55名、D：12名）
沿革	<p>明治27（1894）年 第四高等学校設置</p> <p>昭和24（1949）年 金沢大学法文学部設置</p> <p>昭和47（1972）年 文学研究科設置</p> <p>昭和55（1980）年 法文学部を改組し、文学部、法学部、経済学部を設置</p> <p>昭和59（1984）年 経済学研究科設置</p> <p>平成5（1993）年 社会環境科学研究科設置</p> <p>平成18（2006）年 文学研究科、法学研究科、経済学研究科及び社会環境科学研究科を改組し、人間社会環境研究科を設置</p> <p>平成20（2008）年 文学部、教育学部、法学部、経済学部を改組し、人間社会学域を設置</p>
設置目的等	<p>昭和24（1949）年に、総合大学の文系の中核学部において人文・法学系学生を育成することを目的として、法文学部が設置された。</p> <p>昭和47（1972）年に、学部における一般的教養及び専門的教養の上に、広い視野に立って精深な学識を修め、専門分野における理論と応用の研究能力を有する人材を養成することを目的として、文学研究科が設置された。</p> <p>昭和55（1980）年に、法文学部の3学科をそれぞれ独立した学部として整備するため、法文学部を改組し、文学部、法学部、経済学部が設置された。</p> <p>昭和59（1984）年に、学部における一般的教養及び専門教育を基礎として、さらに複雑さの増す経済現象に的確に対応できる高度な職業的能力及び研究的能力を有する人材養成を目的として、経済学研究科が設置された。</p> <p>平成5（1993）年に、社会環境科学に関する総合的・学際的かつ体系的な教育・研究を行い、高度の学識、幅広い視野及び豊かな応用能力を備えた人材を養成することを目的として、社会環境科学研究科が設置された。</p> <p>平成18（2006）年に、文学・法学・経済学の各分野を発展的に融合させ、人文科学及び社会科学の手法をもとに、個人と集団をめぐる諸問題を多角的にとらえることができる人材養成を行うため、文学研究科、法学研究科、経済学研究科及び社会環境科学研究科を改組し、人間社会環境研究科を設置した。</p> <p>平成20（2008）年に、人間及び人間社会が直面する諸問題の解決に貢献寄与するため、自発的な課題探求能力を持ち、多文化共生時代にふさわし</p>

い理解力と判断力を持った個性的な人材を養成することを目的として、文学部、教育学部、法学部、経済学部を改組し、人間社会学域を設置した。

強みや特色、
社会的な役割

【総論】

金沢大学における学際分野においては、真理の探究を図るとともに、地域及び国際社会における課題解決の役割を果たすべく、教育研究を実施してきた。

引き続き、上記の役割を果たしながら、教育及び研究において明らかにされる強み・特色・役割等により、学内における中長期的な教育研究組織の在り方を速やかに検討の上、実行に移す。

【教育】

(学部)

- 地域創造学、国際学分野の教育研究を通じて、自発的な課題探求能力や解決能力及び多文化共生時代にふさわしい理解力と判断力を備え、地域創造学分野では、地域創造学を核に誰もが生き生きと安心して暮らせる地域づくりを支える実践力あふれた地域リーダーとなる資質を有し、国際学分野では、国際社会への深い洞察力と豊かなコミュニケーション力を有し、広く社会で活躍できる人材を養成する。
- このため、学生が自らの興味・関心の焦点を段階的に絞り込み、学習を深化できるよう設計された経過選択型の教育課程を整備するとともに、日本人学生と留学生の合同授業であるジョイントクラスの充実や派遣留学、地域及び海外へのインターンシップを推進している。
- これらの取組を通じて、地域創造学分野では、地域課題の解決に向けた学生のインターンシップでの提案が地域づくりに活用されている。
- 今後、過疎研究に基づく地域再生に関する教育や国境を越えた地域創造の担い手を育てるための教育の充実を図るとともに、外国人教員や外国で学位を取得した教員、国際機関等における実務経験を有する教員の比率の向上等により、教育環境の一層のグローバル化を推進する。また、卒業時に必要とされる資質や能力を可視化しつつ体系的な教育課程を編成するとともに、学生の能動的学習を促す教育の実施や組織的な教育体制等を整備すること、また、これらの取組の実施だけではなく、可視化した資質や能力に応じた取組の成果や効果等を適切に把握していくことにより、学士課程教育の質的転換に取り組む。

(大学院)

- 地域創造学分野では、地域に暮らす人・社会・環境に関する高度な専門的知識を備え、地域社会の諸問題の解決に取り組む能力を有する高度専門職業人・研究者を養成する。国際学分野では、外国語運用能力を基礎に国際社会の諸課題に対する高度な専門的知識と国際社会で活躍でき

る能力を有する高度専門職業人・研究者を養成する。

- このため、地域創造学分野では、地域課題に実践的に取り組む課題型インターンシップ（長期／短期）や社会福祉を中心とした地域社会における諸問題の解決能力の醸成を目的とした中国人民大学（中国）とのダブルディグリープログラムを実施している。また、国際学分野では、国際的課題に取り組む海外調査研究を科目化するとともに、日本語教育の深化を目的とした北京師範大学（中国）とのダブルディグリープログラムにより、留学生を受け入れている。
- これらの取組を通じて、地域創造学分野では、課題型インターンシップ（長期）における学生の取組が、まちづくり施策に反映されている。
- 今後、地域及び国際社会における様々な課題に対し、異なる専門的視点からの複眼的アプローチにより、課題解決に導く手法を修得する課題研究科目群の充実に取り組む等、社会人、留学生を含め、時代の動向や社会構造の変化に的確に応え、課程制大学院の趣旨に沿った教育課程と指導体制の充実・強化を通じ、大学院における当該分野の強み・特色を明確にする。

【研究】

- 地域福祉、環境共生、地域コミュニティ、まちづくり、地域研究分野における研究実績をいかし、地域政策対応型研究を推進しており、地域課題の解決に向けた政策づくりのための県内自治体等からの学際的な調査・研究事業の委託を受けている。また、欧米政治研究、東アジア文化研究、比較思想史学の分野における研究実績をいかし、異文化理解・異文化共生に向けた研究を推進しており、北京師範大学（中国）からの委託を受け日本語会話教育の教科書の一部を執筆している。
- これらの取組を通じて、海外の著名な学術雑誌への研究成果の掲載という成果が現れている。
- 今後、地域をキーワードとする研究を相互に連携させ、過疎研究を踏まえた地域創造学の推進に向けた地域再生に関する研究拠点の形成を目指すとともに、外国で学位を取得した教員の比率の向上等、教員組織における研究力を強化することにより、異文化理解・異文化共生に向けた研究を組織的に推進し、地域及び国際社会における課題解決・文化の発展に組織的に取り組む。

【その他】

- 全学的な機能強化を図る観点から、18歳人口の動態や社会ニーズを踏まえつつ、学類・大学院の教育課程及び組織のあり方、規模等の見直しに取り組む。